



目 次

書物の背景	附属図書館長 是永 駿 (2)
Libido sciendi	助教授 高階 早苗 (3)
本が人を集め、人が本を集める	助教授 加藤 均 (4)
貴重図書(酸性紙資料)の脱酸処理の実施報告	受入係 澤本 亜紀 (5)
平成11年度貸出図書ベスト30	(6)
学生貸出図書 学年別図書利用統計	(7)
遡及入力プロジェクトと旧分類入力基準について	整理係長 大森 壽子 (8)
『石濱文庫』未整理資料の整備5ヵ年計画について	(9)
平成12年度学術講演会のお知らせ、表紙の解題、編集後記	(10)

大阪外国語大学附属図書館 2000.10.30

LIBRARY INFORMATION

第13号

LIBRARY INFORMATION

書物の背景

附属図書館長

是永 駿

中国の作家茅盾 (Mao Dun) の長篇に『子夜』という作品がある。「子夜」とは「子 (ね) の刻」、夜の11時から1時の間をさす「深夜、真夜中」のことである。1933年1月、上海の開明書店から出版され、民国36年 (1947年) 4月に18版、1951年3月に24版を出しているの、よく読まれた書物と言えるだろう。1版で何部刷ったのか、24版には「滬1—5000」とあるので、この版は上海 (「滬」は上海の別称) で5000部印刷されたことがわかる。内扉のタイトルの背後には網かけするようなデザインで斜めに20行ほど The Twilight: a Romance of China in 1930 という英文が反復されて刷り込まれている。「黄昏、薄明」と「真夜中」とをだぶらせてこの物語の時空の広がりや暗示する心憎いレイアウトである。30年代初頭、資本主義経済の興隆を迎えようとする上海を舞台に、一民族資本家の野望とその挫折が叙事詩的に描かれている。その構成力とノンフィクション的要素をもたせた独特の文体とは早くから注目され、篠田一士は『二十世紀の十大小説』の一冊にこの『子夜』をとりあげている。

1996年7月、この作家の生誕百年を記念して国際シンポジウムが北京で開催された。茅盾は1896年7月4日に浙江省桐郷県青鎮に生まれ、1981年3月27日北京で85歳の生涯を終えている。生誕百年を記念して『子夜 (手迹本)』が会場で発売され、わたしも一冊買い求めた。この作品は1954年に修正が加えられ、昔その校勘記を発表したことがある (330余個所にわたる削除、修正は、愛欲描写や政治意識に関わるものがほとんどで、過去の作品の修正が新中国における文学のメカニズムを逆に照らし出す結果になっている) ので、初版の手稿本が手に入って、これでテキストクリティークの完成度を高められると素直に喜んだのである。しかし、あの戦乱の中をよく残っていたものである。茅盾のご子息である韋韜氏が手迹本の「弁言」 (出版説明) を書いておられ、それによれば、父親の手稿は抗日戦争の戦乱でほとんどが失われたが、この『子夜』の手稿だけは幸運にもある親戚が銀行の金庫にしまっていたために災難を免れたのだ、という。

この手迹本は、執筆時何を消してどのように書き直したのか、斜線で消した個所も直す前の文字が読み取れる個所が多く、茅盾の執筆意識を探る宝庫のような書物である。その意識のゆらぎの中で或る表現に定着するプロセスはまことに興味深いものがあるが、ここでわたしが書き記しておきたいのはそのことではない。この手迹本と初版本との間に多くの異同があるその背景についてである。粒々辛苦のあとが読み取れる手迹本がそのままかたちを変えて初版本として世に出たのでなければ、その異同は何によるものなのか。茅盾の回憶録を読むと、当時中国を代表する出版社であった商務印書館の文学雑誌『小説月報』に連載するべく、全体の半分までの原稿を商務に渡していたが、1932年1月28日に勃発した上海事変で商務印書館が灰燼に帰し、原稿も焼失した。幸い渡したのは手稿の副本 (茅盾の妻が書き写した) だったので、手稿が手元に残った、というのである。異同はあらためて開明書店に渡した原稿が手稿とは別の手直しした副本であったか、あるいは初版の校正時に手を加えたために起きたということになる。『子夜』の第一章は「夕陽」というタイトルをつけて『小説月報』23巻新年号に掲載される予定であったのが、校正刷りが出来上がった段階で日本軍の上海侵略を受け、出版社そのものが壊滅してしまったというわけである (『小説月報』は1910年から21年間発行され続け、中国近代文学の礎を築いた雑誌であったが、この幻の23巻新年号を最後に廃刊される)。商務印書館は1924年5月、鉄筋5階建ての東方図書館を附属の施設として落成させている。1932年1月までの七年余の間に、雑誌・新聞・図版類5万余点を除き、書籍だけで46万3千冊の蔵書を誇るまでになっていた。26年から一般に公開して閲覧、貸出を行い、目録カードも30余万枚をそろえ、利用者は延べ数十万人にのぼったという。この附属図書館もろとも、中国が誇る一大出版社を、日本は空襲と砲撃とで破壊しきったのである。なんとも野蛮な民族だと言われても返す言葉がない。

Libido sciendi

地域文化学科助教授（フランス語）

高階 早苗

初めてフランスを訪れた時、ひとつ野望があった。それはジャック・ドゥーセ図書館を訪れることである。たかだか図書館に入るぐらいのことに野望などとは大層なことだと思われるかもしれない。けれどこの図書館は規模こそ小さいが自筆原稿を多く納めた研究者には涎垂の宝の城であり、駆け出しの院生だった私にとっては、そこに入って調べものをするということだけで、名立たる研究者達に仲間入りできるように思えたのである。

分かりやすいようにパリ国立図書館と比べてみよう。フランス最大のこの図書館は蔵書数800万冊、その起源は14世紀にまで遡る。数年前の移動で近代的な建物に変わったが、私の訪れた時は1858年に建てられた荘厳な建造物が用いられていた。よく整備された検索システムと知識の豊富な多くの司書 規模といい運営方法といいまさに「知」の結集された場であった。圧巻はコンサートホールなみの大きさの閲覧室で、19世紀の内装そのままの巨大な天井のはるか下、熱気に包まれてびっしりと並ぶ座席を研究者や学生達が埋め尽くしていた。初めてその中に入った時には連綿と続くヨーロッパの歴史に圧倒され、かつての知識人と同じ机で第一線の学者から現代の若者までが学んでいるという幻のような光景に感銘を受けたことを覚えている。その一方夥しい数の利用者を機能的に捌くために、入館チェックの制度（外国人利用者は必ず本国の大使館で推薦状を取得しておく必要がある）、マイクロフィルムの閲覧やコピーを申し込む制度（場合によっては数週間かかるため、遠方からの利用者は指定の住所に発送してもらうこともできる）なども充実していた。

それに対しジャック・ドゥーセ図書館は、外観からしてまわりのアパートマンと何ら変わりがなく、地図を持っていたにもかかわらず何度も玄関の前を通り過ぎてしまうような建物であった。表札を確かめ疑心暗鬼のままインターフォンを押して鍵をあけてもらい中に入ると、薄暗い廊下の向こうで図書館の職員の方が、まごついている私にむかって「心配いりませんよ」とばかりに微笑んでくれていた。日本にいと公共施設であろうと一般の店舗であろうとある程

度は親切で愛想のいい対応をされるのが普通であるが、フランスではまさに人次第、気分次第である。特に郵便局や役所、駅の窓口では憤慨することが多いため、たまに親切な対応を受けると感激もひとしおである。（ただし最近の良い職員や駅員にあたる確立が随分高くなったように思われる。）司書の方の事務的でない穏やかな態度には、この図書館の価値に対する自負と、その価値を理解する利用者への敬意と好意が表れているように思えた。事実彼の背後には、ジャック・ドゥーセ本人と秘書アンドレ・ブルトンによって蒐集された19世紀から20世紀にかけての絵画（マネ、セザンヌ、ゴッホなど）と自筆原稿（フロバール、ランボー、ジッドなど）の一大コレクションのうち、文学関係のものが全て納められていたのである。

月・火・木・金の午後2時～4時までという実にフランスらしい開架時間、カード式の検索、幅の狭いすり減った木の階段と小さな閲覧室は時間の流れが止まったかのような静寂の空間であった。たどたどしいフランス語とまるで高校生のような外見を恥じて気後れしていた私に、図書館の職員の方は実に親切に、しかも一人前の研究者として（身分証明書の提示すら求めないまま）扱ってくれたことを覚えている。ある英文学者のエッセイでキーツ・ハウスで調べものをしている様子を読んだことがあるが、詩人自らが住んだ緑豊かな環境にある建物で、毎日書物を積み上げ、4時になると館長と紅茶を楽しむのが習慣であったと書かれていた。そうした小規模で専門的な図書館の、研究者を迎え入れる姿勢にジャック・ドゥーセの年配の図書館員の柔和な物腰が思い出された。

さて、こうした特殊な図書館から本大学、他大学の図書館、市民図書館に至るまで様々な図書館をその役割に応じて利用する図書館フリークの私にとって、図書館の魅力とは、明るく穏やかな（あるいは少々騒々しい）閲覧室や開架の向こうに広がっているはずの異空間「書庫」の存在である。そこは単に本があるというだけの場ではない。子供が寺社仏閣を恐れるように、歴史ある図書館には人を寄せつけない荘厳な雰囲気がある。しかし本当はどんな図書館であっ

ても、カウンターの前には、黄ばんだ紙と何世紀も前の著者の声が閉じ込められた巨大な空間が広がっているのである。図書館を舞台とした小説の中で、オスマン・トルコの税収制度を突然知りたくなった主人公が図書館の地下に閉じ込められ、書籍を閲覧する代償に脳を吸われるという話があった。その中の「それでも知りたいって人は多いんだよ」という図書館員の台詞には共感できるものがある。15世紀の聖アウグスチヌスは人間の3つの欲望を性的欲

望、知識欲、支配欲とし、後のものほど罪深いと述べている。ジャック・ドゥーセ図書館で胸を高鳴らせていた駆け出し研究者の私はもう既にその罪深い欲望の塔の蜃気楼を見ていたのかもしれない。『地球の歩きかた』や『ナントカ学入門』など実生活やレポートに役立つ図書館の利用、好きな小説を借りたり、写真集を見たりといった幸せな利用法の裏に、そんな人間の「知」への欲望をふと思ひ知らされるのも、あるいは図書館の奥深さではないだろうか。

本が人を集め、人が本を集める

留学生日本語教育センター助教授（仏教学）
加藤 均

本学に赴任する前、私は京都にある仏教系大学の付属研究所にいた。所属は「海外仏教研究班」、略して「海仏研」。その目的は、欧米で公刊された仏教関係の研究書・学術論文を収集・分析し、その研究動向・方法論を探ることであった。私自身がこのプロジェクトに参画したのは丁度15年前、発足後4年目のこと。当時は、同僚2人と書籍・論文データベースの作成に携わっていた。しかし、「データベース」という新しいカタカナ語が実際何を意味するのかも分からず、プロジェクトが3年がかりで完成したばかりの分類番号表（内容種別は600を超えていた）を前に、最新の16ビット・コンピューターと格闘する毎日だった。今から思えば、自分自身の勉強にはなったが、無駄な努力をしていたものだと思う。キーワードの抽出・入力など、考えにも及ばなかった。

ただ、このプロジェクトは思わぬ副産物を残した。それは収集した書籍・学術雑誌であった。それらはあくまでも研究目的に集められたものであり非公開であったが、蔵書が5千冊を越えるようになった頃から、日本に留学中の若き仏教学者たちが研究所を訪ねてくるようになった。口コミの世界である。

仏教学は国内では孤高の「閉ざされた」学問分野と思われがちであるが、海外、特に欧米では「開かれた」分野なのである。西洋思潮の閉塞感を背景に、新たな活路を見いだそうと様々な分野から仏教思想へのアプローチがある。勢い、日本に留学するものも多い。しかし、来日中の彼らにとっては、日本語の研究文献に接するのは容易であるが、本国とは異なり欧米諸語

で書かれた文献に触れることは難しくなる。「海仏研」の、数は少ないが専門性の高い蔵書は図らずも彼らのニーズと合致することになった。「本が人を集める」のである。その後、来訪者への対応が私たちの仕事の一つに加わったのは言うまでもない。

今では本国で第一線の研究者として活躍している彼らも、留学中は姿形は色々で、長髪のヒッピー風の者もいれば丸坊主の僧衣姿の者もいた。俗に言う「変な外人」が集まってくるものだから、「海仏研」を「怪物研」と人は揶揄したが、来訪者がもたらす最新の学術情報は実に貴重なものであった。限られた予算内で、質の高い研究書や学術論文を収集できたのは彼らのおかげであろう。「人が本を集める」とはこのことである。

研究プロジェクト自体は10年間の使命を終え、解散したが、収集作業だけは移管され依然続いていると言う。4年前、ミシガン大学を訪れた時も、私が研究所で働いていたことを知ったある教授から「あの蔵書はどうなったのか」と開口一番尋ねられ、驚いたのを思い出す。お互い、相手のことはすっかり忘れていたが、彼もまた「海仏研」の卒業生であった。蔵書については研究者仲間でも今も話題にのぼると言う。

現在、私は奇しくも留学生日本語センター棟にある図書室の整備に関わっている。図書室は最大でも1万5千冊程度しか収蔵できない。しかし、日本語・日本文化関係の専門図書室ならばその規模で十分機能が果たせるのではないかとも思う。「本が人を集め、人が本を集める」図書室にできればと、ひそかに念じている。

貴重図書（酸性紙資料）脱酸処理の実施について

受入係 澤本 亜紀

昨年度末に実施した田島記念財団の奨学寄付金による酸性紙資料の脱酸処理の報告を行う。

酸性紙は、書籍に使用されている紙の内部に含まれている酸が時間の経過とともに酸化したもので、そのまま放置しておけば、紙を内部から破壊し、書籍全体をもむしばんでいく。これは、図書館の蔵書の破壊ともいえるだろう。

各大学図書館では酸性劣化調査報告書なども出されており、酸性紙による資料の劣化が見られるのは、印刷物に木材パルプ紙が使用されるようになった1850年頃、また、世界大戦（第一次・二次）前後、日本に関しては、明治時代の出版物等に多いとのことである。

国内でも、早急にこれらに対して何らかの処置を施すべきであるとの見解が高まり、平成8年10月には、内閣総理大臣に対して「資料の紙質劣化の対策について」との要望も出された。

本学図書館でも酸性紙の劣化は著しい。故石濱純太郎博士旧蔵書「石濱文庫」の貴重資料について、年々その利用は学内外を問わず増加する一方で、その中の酸性紙資料の劣化現象は顕著になりつつある。また、本学図書館に昭和24（1949）年以前に受け入れられた旧分類図書もその多くが酸性紙図書である。本学図書館はこれら貴重資料の利用を現在と将来にわたって保証するために、早急に保存処置を施す必要があるとの見解により、平成11年度、当該貴重資料の保存対策として、DAE法による脱酸処理と、デジタル化を行った。

DAE法とは、気相法（ガス式）による大量脱酸処理法である。この処理によって、酸を中和し、さらに、現在の時点からの酸化を防止する。このほど、国立国会図書館でも試行実施され、良好な結果を得ている。

「石濱文庫」貴重資料のうち、酸性紙資料は約2,000点あり、今回は、モンゴル語新聞3紙、漢籍17点（70冊）、旧分類図書の中から約500冊を脱酸処理した。処理後の全資料に対して、チェックを行った結果、資料中の酸が中和され、アルカリ性になったことが証明された。

検証によると、処理後の酸性紙資料の寿命は3～5倍に延びると報告されているが、今回の処理結果では、その可能性があるということが証明されたに過ぎない。本学図書館では引き続き、処理後の資料の状態を調査していくつもりである。

「石濱文庫」貴重資料については、脱酸処理で保存対策を行うと同時に、研究等利用対策として、35mmマイクロフィルム撮影した。マイクロフィルムでの利用を保証し、さらに、撮影したマイクロフィルムをスキャナーでデジタル化し、WWW等での公開を行いたいと考えている。



*** 平成11年度 貸出図書ベスト30 ***

利用回数	請求記号	書名 / 著者名
17	801.03 226	社会言語学への招待/田中春美, 田中幸子編著
16	913.6 R	国境の南、太陽の西/村上春樹著
16	290.8 R 69	地球の歩き方(バンコク)/地球の歩き方編集室編
14	913.6 R 上	ダンス・ダンス・ダンス/村上春樹著
14	290.8 R	はじめてのドイツ&オーストリア留学(地球の歩き方)/
14	290.8 R	アメリカ大学進学ガイド(地球の歩き方)/
13	290.8 R	地球の歩き方(マレーシア)/地球の歩き方編集室編
13	291 R	京都(ブルーガイドニッポン)/ブルーガイドニッポン編集部編
13	291 R 45	京都シティ(ブルーガイドハック)/ブルーガイドハック編集部編
13	290.8 R 17	地球の歩き方(東南アジア)/地球の歩き方編集室編
13	290.8 R	地球の歩き方(ヨーロッパ)/地球の歩き方編集室編
13	225 580	インド独立史/森本達雄著
13	810.4 150	日本人の発想、日本語の表現(中公新書)/森田良行著
12	801.12 43	音声学/城生百太郎著
12	801.1 220	音声学入門/小泉保著
12	810.8 30 1 4	日本語のモダリティと人称(日本語研究叢書)/仁田義雄著
12	815 38	象は鼻が長い/三上章著
12	290.8 R	カナダ留学(地球の歩き方)/
12	290 R 34	ヨーロッパ鉄道の旅(ブルーガイド・ワールド)/ブルーガイド海外版出版部編集
12	302.36 37	日本人には分からないスペインの生活/榎本和以智著
12	291 R 12	京都(Newブルーガイドブックス)/ブルーガイド編集部編
12	290 R 4	タイ(ブルーガイド・パンフィカ)/ブルーガイド・パンフィカ編集部編
12	290 R 17	韓国(ブルーガイド・ワールド)/ブルーガイド海外版出版部編
12	290.8 R 45	地球の歩き方(オランダ)/地球の歩き方編集室編
12	290.8 R 36	地球の歩き方(ウィーンとオーストリア)/地球の歩き方編集室編
11	253 217	この一冊でアメリカの歴史がわかる!/猿谷要著
11	290.8 R	香港個人旅行マニュアル(地球の歩き方)/
11	290.8 R	インド個人旅行マニュアル(地球の歩き方)/
11	290.8 R	地球の歩き方(インド)/地球の歩き方編集室編
11	290 R 6	ソウル・韓国(ブルーガイド・パンフィカ)/ブルーガイド・パンフィカ編集部編
11	290 R 3	ヨーロッパ(ブルーガイド・ワールド)/ブルーガイド海外版出版部編
11	290.8 R	フランス(地球の暮らし方)/地球の歩き方編集室企画,ぐるーぷ・アフレ著編
11	130 174	クマのプーさんの哲学/ジョン・T・ウィリアムズ著,小田島雄志,小田島則子訳
11	807 406	第2言語習得への招待/Diane Larsen-Freeman, Michael H. Long著,牧野高
11	816 123	大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方/吉田健正著
11	913.6 R 下	ダンス・ダンス・ダンス/村上春樹著
11	834 147	毎回でるTOEFL・TOEICの英熟語/山口昌彦著
11	807 462	外国語の効果的な学び方/ジョン・ルービン, アイリーン・トンプソン著,西嶋久雄訳
11	807 465	バイリンガル教育の方法/中島和子著
11	361 421 15	差別と共生の社会学(岩波講座現代社会学)/井上俊〔ほか〕編集
11	801.04 409	子どもたちの言語獲得/小林春美, 佐々木正人編
11	167 582	イスラム教入門(岩波新書)/中村廣治郎著

*** 平成11年度 図書貸出統計 ***

区分 月	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	技術工学	産業	芸術	言語	文学	計		
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	冊数	人数	開架率
平成11年 4月	64	125	438	651	37	48	30	71	520	592	2,576	1,346	93.13%
5月	150	291	726	1,229	103	169	76	174	774	694	4,386	2,367	93.75%
6月	193	359	897	1,568	121	175	78	199	940	841	5,371	2,902	94.29%
7月	181	448	1,181	2,001	115	169	70	288	1,318	1,220	6,991	3,178	96.37%
8月	44	62	209	473	35	33	13	51	306	226	1,452	670	93.55%
9月	155	424	1,159	2,051	121	150	105	229	1,258	912	6,564	3,381	95.31%
10月	136	327	931	1,671	132	93	69	178	947	961	5,445	2,944	94.44%
11月	125	325	848	1,636	97	127	96	172	836	919	5,181	2,709	94.95%
12月	171	418	1,112	2,046	132	162	75	269	1,190	1,085	6,660	3,123	96.88%
平成12年 1月	174	467	1,428	2,377	183	258	96	360	1,334	1,024	7,701	3,888	96.27%
2月	95	316	756	1,207	97	145	58	171	893	752	4,490	1,958	97.01%
3月	21	54	121	217	33	19	7	37	195	194	898	374	92.38%
合計	1,509	3,617	9,808	17,130	1,210	1,553	779	2,206	10,519	9,429	57,760	28,840	94.86%

*** 平成11年度 利用統計 ***

区分 月	昼間主				夜間主				大学院前期課程		大学院後期課程		
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	1	2	3
平成11年 4月	1,679	1,300	1,411	1,373	322	253	398	400	446	256	83	39	48
5月	3,227	2,796	3,479	2,614	603	496	998	837	664	380	111	79	64
6月	3,586	3,693	4,463	3,377	739	671	1,248	1,251	758	579	109	104	74
7月	2,361	2,272	2,896	3,062	513	607	876	941	517	563	103	44	72
8月	390	311	373	827	81	110	123	109	134	194	8	15	25
9月	5,218	5,228	4,288	4,165	1,265	993	1,131	1,006	527	607	60	74	68
10月	3,127	2,724	3,286	4,590	631	479	1,012	964	638	462	84	61	93
11月	2,722	2,641	3,216	4,002	479	519	895	885	500	444	88	63	66
12月	2,325	2,232	2,923	3,674	496	428	690	725	403	386	71	80	74
平成12年 1月	4,875	4,675	4,435	3,353	876	691	819	815	421	350	47	75	75
2月	2,390	2,176	2,076	1,527	758	624	407	352	196	207	32	51	51
3月	97	176	228	291	18	53	84	54	102	88	10	16	34
合計	31,997	30,224	33,074	32,855	6,781	5,924	8,681	8,339	5,306	4,516	806	701	744

区分 月	留学生		研究生	聴講生	卒業生	非常勤 講師	私学 研修員	外国人 研究者	教職員	学外者	その他	合計
	1	2										
平成11年 4月	53	174	3	0	52	129	0	0	275	60	795	9,549
5月	74	88	172	57	92	214	0	0	326	87	914	18,372
6月	120	215	313	135	146	275	0	0	333	45	308	22,542
7月	101	174	232	76	199	217	5	0	300	68	260	16,459
8月	31	83	66	4	47	22	0	2	105	50	89	3,199
9月	47	291	250	73	81	209	2	19	294	61	318	26,275
10月	38	203	249	92	82	237	0	16	318	67	261	19,714
11月	21	229	145	73	80	244	0	11	277	51	258	17,909
12月	10	164	110	66	67	172	0	14	248	32	218	15,608
平成12年 1月	27	181	154	61	63	184	0	10	239	22	285	22,733
2月	45	253	127	16	47	148	0	7	207	61	280	12,038
3月	7	77	45	3	29	53	0	8	130	22	212	1,837
合計	574	2,132	1,866	656	985	2,104	7	87	3,052	626	4,198	186,235

遡及入力プロジェクトについて

整理係長 大森 壽子

現在、蔵書冊数約58.7万冊のうち、図書の電算入力済みデータは、書誌情報34万件・所蔵情報36万件ですが、そのうちデータの不備等が約17,000件有ります。今回はこの不備なデータの修正と遡及入力を行います。次の課題として、約10万件の特殊言語が、遡及入力されておりませんが、これらについても、今後遡及入力のプロジェクトに組み込んでいかなばなりません。今後マニュアルの作成と更新を行ないながら、利用者へのサービスの向上のため積極的にデータの整備を行ないたいと思います。

1. 新分類 (対象図書……17,410件)
 - ①. TR “閉架図書登録中” ……952件
 - ②. 書誌番号 “0000000000”
(未登録図書貸出時に作成) ……6996冊
 - ③. 出版年 “0001” ……17,951件
(内8,489件はLL資料) この部分は削除予定
* 17,951 - 8,489 = 9,462 (件)
2. 旧分類 (約18,000件 ; 約25,000冊)
 - ④. フロッピー入力済み……約20,000冊
 - ⑤. DBに入力済み
 - ⑥. 未入力

*④について……図書IDが未入力である。
著者名、書名のヨミが現行の入力基準と異なるので検討を行なった結果、現物からの直接再遡及入力をすることにした。
3. 入力作業について (作業配分)
 - 整理係……旧分類・新分類
 - 学情係……旧分類・
 - 運用係……新分類

* 新規に発生した仮登録図書の遡及入力
* 研究用図書の遡及入力

旧分類の入力の基準について

1. 分類……旧分類の体系を残しつつデータ入力を行なう。既に入力されているものは、
[例] 020Q、310E
となっているものが多いのでこの方法を採用する。
2. 背ラベル……現行の紺色のラベルを貼る。
3. 図書ラベル・00094 (既存の登録番号は無視、仮登録図書用として、運用係で使用する。)
00097…… (学情係、整理係)
4. 所在コード……旧分類の書庫内の所在コードをユニークなものにする。
5. 脱酸処理済図書について……所蔵訂正画面の注記部分に“年月日”と“脱酸処理済図書”を記入する。(643冊)
6. 今回の遡及入力対象外の図書……和装本、中国書、巻き物

7. 旧分類の遡及入力期限は、特に設定しない。
8. その他、問題点が発生した時は、整理係、学術情報係、運用係で方針を決定し、順次マニュアル化し、旧分類図書遡及入力方針を確定していく。

遡及入力マニュアル

1. 雑誌
 - ① 複製本 : NCに書誌が有るもの
NC側・図書と雑誌の両方に書誌がある場合……両方に所蔵をつける。(図書の方をダウンロードする)
・雑誌にのみ書誌がある場合……雑誌に所蔵をつける。
□ーカル側・図書として登録する。
(雑誌の書誌をCtrl+Cでコピーをし、ローカルの図書の方にCtrl+Vで貼り付ける。但し学情IDはID部分には記入せず、注記する。)
 - ② 雑誌の単冊で、外大では図書扱いにしているもの
NC側・図書に書誌がある場合……図書に所蔵をつける。
・雑誌にのみ書誌がある場合……雑誌に所蔵をつける。
□ーカル側・図書として登録する。
・NCに書誌がない場合……ローカルにのみ登録。但し、所蔵訂正画面の所在コードを0000001111に変える。
0000001111……表示は書庫であるが、コードテーブルには、雑誌遡及入力としての意味をもたせておく。
2. 書架記号をSERとしているもの
同じ資料の中で、SER(現行)とSER以前とに分類が二分されているものは、全てSERに分類替えをする。
著者名カード・書名カードを抜く。配列簿を変更する。SERの場所に配架する。但し、SERの場所が移動を伴う場合は、運用係に図書を預ける。(運用係による図書の移動)

『石濱文庫』未整理資料の整備5ヵ年計画について

附属図書館

本学附属図書館では、『石濱文庫』という世界的に誇れる東洋学関係の蔵書を有しており、昭和52年には『石濱文庫目録』を刊行しています。しかし、目録未記載資料をまだ多数有しており、さらに整理された資料のうちにも、全く保存の観点の欠落している状態の資料も多数有り、その整備が急がれます。

そこで図書館として1昨年に5ヵ年計画を策定し平成11年度、12年度と予算要求が認められ現在このプロジェクトの推進中であり、その内容は以下のとおりです。

1. 本学所蔵の『石濱文庫』は学内屈指といわれる東洋学コレクションであり、故石濱純太郎博士旧蔵書、漢籍20,262冊、和書9,021冊、洋書3,269冊、雑誌9,743冊、合計約43,000冊からなっています。
2. その内容は、モンゴル語・満州語・西夏語・ウイグル語・チベット語等に関する資料が数多く、さらに漢籍・殷墟書契関係文献・敦煌関係文献、洋書では歴史学・言語学を中心とする東洋学文献は偉容を誇っております。
3. 『石濱文庫』の整理は昭和43年受入れ後、約10年を要して昭和52年3月には『石濱文庫目録』の完成を見ました。しかし、全ての資料の整理が完了した訳ではありませんでした。
昭和54年学舎移転後、未整理分（ダンボール箱約50箱）は附属図書館倉庫に保管されたままでしたが、貴重図書室完成時に『石濱文庫』を別置き、現在に至っております。
4. 平成9年度教育研究学内特別経費の配布を受け、未整理資料の仕分けを行いました。対象資料は7,000点以上（資料5,131冊、書簡類2,000点）にも及び、これらの資料の散逸を避けるためにも整備を速やかに行う必要があります。
5. 未整理資料約5,000冊の内訳は、欧文書目類832冊、和文書目類1,491冊、漢籍蒙文書目類212冊、カタログ・パンフレット・抜刷788冊、和雑誌1,376冊、洋雑誌22冊、和図書215冊、洋図書145冊、その他50冊です。これは平成9年度行った調査の結果であり、未整理分は約2,000点を超えることは間違いないと思われます。
書簡類2,000点については、書簡類総数の約3分の1であり、未整理分は4,000点にのぼると思われます。
6. 『石濱文庫』資料の利用については、過去10年来、他大学を含めて非常に多くなっています。特に最近では、満州語文献、モンゴル関係資料、ネフスキー関係資料に利用が多く、文献複写等も適宜許可しているところです。
7. 未整理資料の整備については、上述のように約13,000点程あること、さらに第一次『石濱文庫』整理時に全ての資料の調査・点検は一応の完了を見せてはいますが、明確な保存という形での整備は今日に至るまでなされず、従って、保存及び利用という観点から早期に未整理資料の整備を行い、『石濱文庫目録』補遺版ともいべきものの作成とともに、『石濱文庫』の有効利用と永久保存のための方策を今回講じるため、5ヵ年計画を立案し、平成11年度は予算の配分を受け、初年度計画分を遂行したところであります。
8. 『石濱文庫目録』補遺版なるものは、平成11年5月に関西大学内藤湖南文庫目録（21,430冊）として作成されたCD-ROMのように、電子化も指向していく必要があると思われます。
この計画には、特殊文庫運営委員会委員をはじめ、学内外の研究者諸氏のご協力が必要不可欠と思われるので、是非とも協力を要請したいと考えております。

『石濱文庫』未整理資料整備5ヵ年計画

初年度（平成11年度） ・未整理資料の電算入力 ・書簡類の整理	196.48万円 謝金1名・1日4時間・週1回・年40週 人件費：1名×4,100円×4h×1回×40週=656,000円 アルバイト 院生2名・1日7時間・週2回・年40週 2名×990円×7h×2回×40週=1,108,800円 消耗品、その他200,000円
第2年度（平成12年度） ・未整理図書ラベル貼り ・補遺版作成準備	196.48万円 (同上)
第3年度（平成13年度） ・補遺版作成 ・保存資料マイクロ化	266.48万円 科学研究費補助金「研究成果公開促進費」申請予定 (上記人件費+補遺版印刷費70万円) 石濱文庫目録電子化3ヵ年計画 [初年度 申請額600万円]
第4年度（平成14年度） ・保存資料マイクロ化 ・保存資料製本 ・拓本類整理	180万円 科学研究費補助金「研究成果公開促進費」申請予定 (マイクロフィルム作成費のみ) 石濱文庫目録電子化3ヵ年計画 [第2年度 申請額600万円]
第5年度（平成15年度） ・保存資料マイクロ化 ・保存資料製本 ・拓本類整理	180万円 科学研究費補助金「研究成果公開促進費」申請予定 (マイクロフィルム作成費のみ) 石濱文庫目録電子化3ヵ年計画 [第3年度 申請額600万円]
5ヵ年計画費用合計	1,019.44万円

◎平成12年度学術講演会のお知らせ◎

◆演題

☆ドン・キホーテにみられるスペイン語 (中岡省治 大阪外国語大学教授)

☆移りゆく上方ことば (堀井令以知 関西外国語大学教授、図書館長)

◆日時/平成12年11月2日(木) 午後1時~4時

◆場所/附属図書館4階AVホール

◆協賛/大阪外国語大学言語社会学会

表紙の解題

本学図書館には、昭和24年以前に受け入れた図書を旧分類図書として、現在のNDCによる分類ではなく独自の分類で1階集書架を中心に別置している。その所蔵数は約3万点以上も有り貴重なものが多数散見できる。本学の図書館は戦災による焼失を免れたため多数の資料があるのだが、戦時中の貸出中のものなどは紛失扱いとなっているが、図書原簿はすべて残存しているので現在でも図書の調査に役立っている。最近になって大正13年7月9日に受け入れた日本木版画輯(10枚)が旧分類の書架から発見された。420-121に分類されていて受け入れ番号もついている。図書原簿では昭和9年8月30日廃棄となっているが、多分紛失扱いとなっていたものである。これらは1枚1枚にプレスがしてあり本学図書館の所蔵物であることはこれで明白である。

10枚の版画は川又常行(夜の街)、菱川師宣(歌舞伎)、安藤広重(諸国名所攝津)、喜田川歌麿(美人愛敬競)、守清(郭)、細田栄之(読書)、英一蝶(布酒図)、土佐光起(昼師図)、奥村政信(小倉山)そして表紙王若水(紅椿)のでセットになっている。解説には「若水は元代抗の人なり幼より画に志し山水花鳥人物一として可ならざるなし特に師を定めず古人に私淑し山水は郭熙を花鳥は黄筌を人物は唐人等に習い機温発古に尚て古に泥せず、元時代有数の画匠たり。本花鳥画は二幅対の一にして相阿弥及び深幽の画あり椿花、梅花交錯して紅白掩映し翠竹水仙共に清流と相映じ小禽所々に点綴さす等誠に妙を得たるものなり」とある。

◆編集後記◆

○ 旧分類図書の遡及プロジェクトを開始しました。現在教育研究学内特別経費(学長裁量経費)による特諸言語整理(遡及を中心に)でアラビア語、ウルドゥー語、ミャンマ語の整理〔電算機入力〕をおこなっていますが、それと並行して書誌、所蔵情報の不備のメンテナンス、旧分類の資料の遡及を整理係、学術情報係で行いつつあります。

○ 昨年末に本学卒業生のご家族の方から戦前に卒業生が借り出していた図書が入った小包が届き、原簿で調べてみるとやはり昭和24年3月20日整理(昭和20年3月14日戦災焼失による)紛失扱いになっているものであった。この図書は大正5年10月25日当時120円で購入したもので、Arabic-English dictionary for the use of students / J.G. Hava. Beirut : Catholic Press, 1921. (登録番号11350分類A-380/76)である。ご家族の手紙では兄さんの入学されたころ(昭和18年)頃に図書館で借りたものではないかとのことで、約56年ぶりにこの図書が返ってきたという事になります。兄さんの遺品を整理されていた弟さんから送られてきたもので、この紙面を借りてお礼を申し上げ、本学の図書として復帰させ、利用に供していきます。(専門員 岸本晴広)